

# owe

2003年冬季号(通巻52号)

発行:財団法人 豊川市国際交流協会

編集:ニュースレター部会

〒442-0878 豊川市新道町1丁目1-3 勤労福祉会館内

0533-83-1571 FAX0533-83-1581

(年4回 5・8・11・2月発行)

ホームページアドレス <http://www.yui.or.jp/tia/>

メールアドレス [tia@yui.or.jp](mailto:tia@yui.or.jp)



## ● 農村から働きに来た少女たち

諏訪町 林 明子

春節、元宵節を過ぎたばかりの頃、北京駅、崇文門、黄庄には、想像を絶する数の若者が集まって来ていました。今から12年前のことです。そのほとんどが、17・8歳の少年、少女です。実は、彼らは、全て田舎から都会へ仕事を探しに来た農村の若者たちなのです。その光景は、今なお続いているそうです。

北京の場合、主に安徽省、河南省、四川省から、彼らは汽車でやって来ていました。中でも少女たちは、工員として働いたり、主にお手伝いさんの仕事を希望する子が多いということでした。安徽省阜頭からのお手伝いさんは、その数が多いことでよく知られていました。彼女たちは、友人や姉妹の話を聞いたり、紹介されてやって来ていました。住居の自由が、基本的にはまだない中国

では、平均2,3年働いて故郷に帰り、結婚します。20歳前後が婚期でしょう。彼女たちには、お金を稼ぐという目的以外にも、結婚前にあこがれの都会生活を少しでもかいてみたいというささやかな願望があるのだそうです。

彼女たちにとって、花形職業でもあるお手伝いさんは、各家庭に住み込みで働いて、炊事洗濯、子供の塾通いの世話が主な仕事です。休日はありません。当時は、1カ月60~70元(1元=約30円)が彼女たちの給料の相場でしたが、現在では、平均500元になっています。(1元=約14.7円)。地方都市の場合は、約350元に下がります。核家族が増え、共稼ぎの多い中国では、1カ月約2000円の収入があれば、お手伝いさんを雇う習慣があります。ここ十数年来、日本の高校生にあたる農村出身の少女たちが、経済の急成長を遂げている中国社会の縁の下の力持ちの一翼を担っているとは、驚きですね。